

【ポスターセッション】

「ニュージーランドの子ども虐待対応機関におけるノンジャッジメンタル・トレーニング」

ー多様化する家族へのソーシャルワーカー

○ 追手門学院大学 栗山直子 (003197)

The Chris Ruth Center 山田美智子 (009308)

キーワード3つ: ニュージーランド、CFY、ノンジャッジメンタル・トレーニング

1. 研究目的

ニュージーランドは国土面積 26 万 8107 平方キロメートルで日本の約 4 分の 3 の面積しかなく、人口約 460 万人という小さな国である。国の規模が小さいことが効を奏し、先進国の中でもいち早く多文化主義を取り入れ、脱西洋中心主義、脱近代家族化に成功するなど社会的実験国としても知られている。本研究では、家族多様化の中での虐待支援システムが整えられつつあるニュージーランドの取り組みについて質的調査より報告を行う。

2. 研究の視点および方法

栗山は 2016 年 4 月に「ニュージーランドの虐待児への祖父母による代替養育の実態的調査」のテーマで文部科学省科学研究費助成金基盤研究 C (課題番号 16K04220, 研究代表者:栗山直子) を得て 2016 年 8 月にニュージーランドのオークランドとクライストチャーチにある児童虐待関連機関に「近代家族イデオロギーと子ども虐待に関する半構造化インタビュー調査」を行った。本報告では、なかでも児童保護機関であるチャイルド・ユース・アンド・ファミリー (Child Youth and Family:CYF) に行った調査の報告したい。CYF は子ども虐待・児童養護・非行を専門に取り扱う児童保護機関であり、ほぼ日本の児童相談所に該当する。14 歳以上 17 歳未満の子どもの非行問題を主に担当するユースジャスティス (Youth Justice) 部門と 17 歳未満の子ども虐待、養護、障害児などに対応するケア・アンド・プロテクション (Care and Protection) 部門、養子縁組部門、里親部門に分かれている。今回の調査では子ども虐待を主に扱うケア・アンド・プロテクション部門で働く 3 名のソーシャルワーカーにインタビューを行った。また「ノンジャッジメンタル・トレーニング」の現任教育については研修セミナーに参加した。このセミナーでの現任教育について報告する。

3. 倫理的配慮

本調査の倫理的な配慮としては、インタビューをする前に CYF スタッフに対して、①研究の趣旨の説明、②結果の利用についての説明、③プライバシー保護についての説明、④録音・メモの許可、⑤データを公表の了解をとった。また事例などについては個人の特定を防ぐため、登場人物の記載に加工を加えている。なお、本インタビュー調査、および分析にあたっては日本社会福祉学会の倫理綱領を遵守している。

4. 研究結果

CYF のコーディネーターは大学でもノンジャッジメンタル・トレーニングについてのカリキュラムを受講し、研修生の時にも「規範によらない思考力」、そこから生じる「ノンジャッジメンタルな態度」を査定される。そして、一番重要なのは親族・部族など広い範囲での子どもの関係者が集合して支援計画に参画することである。環境という視点から、部族長や遠縁のような広い範囲の親族の関係性を見据えることによって、子どもが何を必要としているか、そしてその手助けは誰がなにを分担していけばいいか、チームでの支援体制を構築することができる。CYF スタッフへのインタビューから、NZ では子どもを家庭ではなく、「環境」のなかでとらえることが共通項となっていた。

5. 考察

CYF での家族支援の方法も西洋的な家族観によっていない。家族というミクロな視点を超えて、親族サポートネットワークというメゾ、環境というマクロな視点のなかで子どもを支援している。というのも、マオリ文化では親族との関係性のなかで子どもは育つことがその文化を知る上でも成長にとって欠かせないことだからである。家族というミクロな視点でみた場合においても、家族は画一化されておらず、一人親家庭、子どものある非婚カップル、子どもと住んでいないが交流している親、有子の同性愛カップル、無子の同性愛カップル、多世代を通してのネットワーク家族など多様な家族が共存している。

NZ も日本と同様に、パートナーシップの不安定化、結婚率の低下、結婚と子育ての乖離、家族の中での女性の経済的役割の変化などが背景にはあった。しかし現在では、ミクロでは多様な家族、メゾでは親族ネットワーク、マクロでは環境の視点と 3 レベルから子どもを支援する体制が強化されていることがわかった。

* 本報告は「ニュージーランドの虐待児への祖父母による代替養育の実態的調査」文部科学省科学研究費助成金基盤研究 C（課題番号 16K04220, 研究代表者: 栗山直子）の調査の中間報告の一部として行っている。